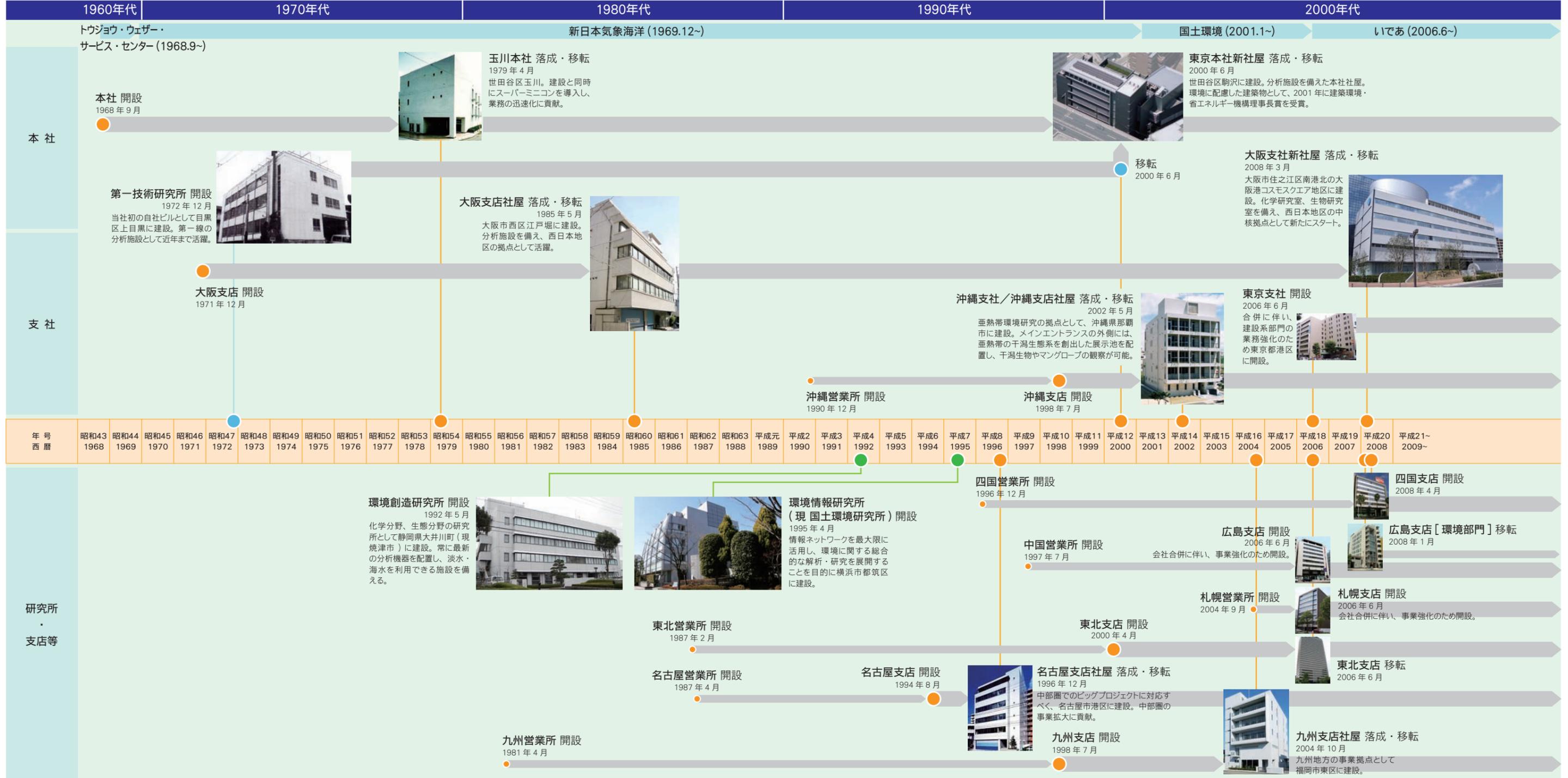


主要拠点の変遷



大阪支社 [2008年3月新社屋落成]

2008年3月、大阪港コスモスクエア地区に新社屋を開業しました。西日本地区の中核拠点として設備を拡充し、鉄骨構造、地上6階建て、延床面積は8,012㎡です。新社屋の主要施設を紹介いたします。

- 生物研究室** 環境と建設を融合した総合的な技術力を発揮し、自然環境の保全や再生技術の研究開発に取り組めます。生物分類の基礎分野から土壌工学と生態学を融合した応用分野まで幅広いニーズにお応えします。
- 水工実験室**：淡水・海水を利用した自然再生技術、ピトー管設計等の実証実験、水理実験、生物応答実験、埋土種子発芽実験、ミニ生態系再現実験などを行います。
- 生物飼育室**：水生生物、昆虫、小動物など各種の飼育実験と生物リハビリテーションを行います。
- 生物標本室**：国内外の研究者への提供も視野に入れ、陸上動植物、淡水生物の標本を展示・保管します。
- 多目的室**：ホルマリン無害化装置を配備し、生物サンプルの1次処理を行います。
- 生物検鏡室**：生物種の種類・同定、生物サンプルの計測などを行います。

化学研究室

この研究施設は、関西圏のみならず全社の化学分析業務の拠点となることを目的とし、特に微量化学物質など新たな項目にも対応できるよう、施設に工夫を凝らしています。また、将来、生化学分野や材料分析など新たな業務に対応できるように低温実験室や多目的実験室を設置しました。

【その他の主要設備】

- ナノ粒子研究室**：新たな機能を有する高分子ナノ粒子の製作及びその機能性評価を行うための研究施設です。将来、ナノ粒子の機能を活用したワクチンの開発など、新規分野への展開を目指しています。
- 低温実験室**：酵素、生物活性測定など低温条件を必要とする業務や実験に対応するための設備です。酵素を使った分析や簡易測定法の開発など、新たな測定技術に取り組めます。
- ホール**：ホールは200名程度が収容でき、200インチの大型スクリーンや映像・音響設備が完備されており、各種の講演会などにも対応できるようになっています。ホールの映像・音声は、TV会議システムによって全国の拠点にリアルタイムでの配信が可能です。
- 太陽光発電システム**：地球温暖化防止の観点から、屋上には太陽光発電設備を設置しています。当初の発電電力量は10kWhですが、順次整備を進め、最終的には40kWhにまで拡張する予定です。

沖縄支社 / 沖縄支店 [2002年5月社屋落成]

沖縄の優れた環境や豊かな生態系の保全のためには、地域に密着した仕事が重要であると考え、1998年7月に沖縄支店を開業しました。近年、さらに沖縄における環境問題に関する業務や貴重種の保護などの業務が増え、生物飼育実験や化学分析の必要性を感じ、2002年5月に新社屋を建設しました。

1階には生物飼育実験室や生物検鏡・分析室、2階にはダイオキシン類、環境ホルモンなどの分析も可能な化学分析室や採光型生物飼育実験室、環境調査機材センター、3階・4階は事務室、5階には環境情報交流センターとして多目的研修室などを配置しています。また、地球温暖化防止の観点から、太陽光発電システムを屋上に設置しています。

- LC/MS/MS
- 6階ホール
- 太陽光発電システム
- 生物飼育実験室

国土環境研究所 [1995年4月開設]

国土環境研究所は、開設以来、情報技術の進歩に即応しながら、全社的な業務の一貫実施体制の中で、環境に関するデータベースの構築、モデル開発、予測・評価、計画等の総合的な技術開発・研究を展開するとともに、環境に関わる情報を集積・提供する拠点としての役割を果たしています。

環境創造研究所 [1992年5月開設]

環境創造研究所は、自然の仕組み解明のための調査研究や、生態系の修復・創造技術を開発するため、生物と化学を専門とする技術者が中心となって、各種の生物実験や化学物質の高度な分析にあたっています。ISO/IEC 17025等の国際標準による精度管理のもと、高精度な化学分析を行うとともに、優良試験所規範 (GLP) に適合した生態影響試験施設を有し、化学物質の環境リスク・毒性試験を行っています。2008年7月には「循環式飼育実験施設」が完成し、病原体等を持った魚類を用いた飼育実験が可能となりました。